

## I . スマートプロセス学会 投稿規定

1. 投稿資格  
会員（名誉会員、学生会員を含む）および会員の紹介者とする。  
投稿原稿については著者のうち1名は会員であることを要する。
2. 原稿の種類  
研究論文、技術資料、研究ノート、研究速報、解説、海外情報、国内情報等とする。
3. 原稿の作成  
スマートプロセス学会執筆要領にしたがって作成すること。
4. 原稿の査読  
原稿は、編集委員会で査読する。
5. 依頼原稿  
解説、海外情報、国内情報は、編集委員会が依頼する。
6. 別刷  
投稿者は、掲載論文（研究論文、技術資料、研究ノート、研究速報など）の別刷 50 部を購入すること。なお、追加を希望する場合は、50 部単位で申し込むことができる。掲載論文及び依頼原稿の別刷料金についてはそれぞれ別に定める。
7. 著作権  
当会誌に掲載された寄稿・投稿等の著作権はスマートプロセス学会に帰属する。  
ただし、著作者自身が自分のために、掲載された論文等の全文又は一部を利用する場合は、本会  
はこれに対して異議を申立てにより、妨げることはしない。
8. 投稿・連絡先

一般社団法人 スマートプロセス学会 編集委員会  
〒567-0047  
茨木市美穂ヶ丘 11-1 大阪大学接合科学研究所内  
電話：06-6877-5111（内線 9337）  
FAX：06-6878-3110  
E-mail：sps@jwri.osaka-u.ac.jp

## II . スマートプロセス学会執筆要領

### 1. 原稿の構成および配列順序

種類 配列順序	解説	研究論文	技術資料	研究ノート 研究速報 <sup>1)</sup>	海外情報 国内情報
1. 表紙	本会所定の様式による<筆者紹介及著作権承諾書>				
2. 英文概要	不要	400語以内	400語以内	400語以内	不要
3. 本文	8ページ以内 <sup>2)</sup>	8ページ以内 <sup>2)</sup>	5ページ以内	2ページ以内	2ページ以内
4. 図、表および写真の 挿入文と説明文	英 文	英 文	英 文	英 文	英 文
5. 表	図と重複しないこと				
6. 図	原則として電子データによる。				
7. 写 真	原則として電子データによる。モノクロームとする（カラー印刷の場合は実費負担）				

- 1) 査読終了後、至近の号に掲載する。
- 2) 原稿構成8ページを超えるものは、査読者及び編集委員会が必要と認めた場合、最大12ページまでとする。また、原稿構成4ページ未満のものは、査読者及び編集委員会が必要と認めた場合、掲載する。

### 2. 研究題目

一連の研究においても研究題目に「第1報」「第2報」などとしなない。ただし研究題目を同じとし異なる副題を付記する事ができる

### 3. 投稿時の原稿と採択時の原稿の用字・用語・図・表および写真は以下の事に従うこと

#### 3-1. 投稿時の原稿の作成

Webからテンプレートをダウンロードし、作成する。図・表などにはめ込み、PDF化して提出する。

#### 3-2. 投稿時の原稿の送付

E-Mailを原則とする。ただし、E-Mailで送付する場合は5MBまでの容量とする。それ以上は、大容量ファイル配達サービス等の手法により、送信することとする。  
投稿原稿のPDFファイルとともに「著者紹介および著作権承諾書」を記入の上、添付すること。  
ただし、「著者紹介および著作権承諾書」はWebからテンプレートをダウンロードすること。

#### 3-3. 採択後の原稿の送付

原稿の採否は、編集委員会で決定する。採択通知後投稿者は速やかに以下の様式に従い提出する。  
製版用に原稿はA4（1枚40字×32行、1280字とし、フォントはMS明朝体・10.5ポイント、英文はTimes使用）Wordファイルを使用し作成する。  
図面等に関しては別のWordファイルとし、A4サイズで1ペーパーに1アイテム（図・表・写真など）として提出する。

- (1) 文は原則として和文又は英文とする。
- (2) 文体は新かなづかいによる口語体とする。なお当用漢字を使用する。
- (3) 文章には句読点「、」「。」を使い、一字（原稿用紙一コマ）を当てる。
- (4) 式を書く場合、文章中では(a/b)/(y+t/2)のように書き、記号の説明を必ず入れる。
- (5) 単位、記号ともJISに準じ、単位はSI単位とする。
- (6) 図、表および写真はなるべく少なくし、同一事項を図と表の両方で表すことは避ける。
- (7) 採択時原稿においては図、表および写真は枚ごとに別紙とし、それぞれに通し番号を記入する。  
図、表および写真の説明は、番号順に一括して本文末尾につける。
- (8) 写真はTiff形式（1200dpi以上）のファイルを推奨する。
- (9) 図および写真は縮尺を考慮して文字の大きさと線の太さに注意する。刷り上がりの大きさは80

mmを標準とする。原図は刷り上がりの2倍あるいは3倍の大きさに書き、文字の大きさも刷り上がりが1.5 mmとなるように考慮する。

(10) 図、表および写真の挿入位置は原稿用紙の右の欄外に朱記する。

(11) 顕微鏡写真は必ずその倍率または尺度を明記する。

#### 4. 脚注

脚注は本文中の対応箇所の右肩に\*、\*\*、の記号を付記し、そのページの下端において見出し記号に続けて記載する。

#### 5. 引用文献

本文中の引用箇所の右肩に<sup>1)</sup>・<sup>2)</sup>のように通し番号を付し、著者および出典を本文の終わりに番号順に記載する。

例 (論文)

E.Heinheimo, A.Kodenstov and F.J.Van Loo: Acta Metall.Mater., 40(1992)111-117.

号が必要なときは、たとえば40巻5号 (Vol.40, No.5) の場合40-5のように記入する。

G.P.Keller and A.H.Carim: Proc.2nd Int. Forum on Structural Ceramic Joining, The American Ceramic Society, 1992, p23-31.

三本嵩哲・中西望・梅田純子・近藤勝義: 高温学会誌、37-6 (2011) 326-331.

(単行本)

Y.A.Chang and M.X.Zhang: "Control of Interfaces in Metal and Ceramics Composites", ed.by R.Y.Lin, TMS, 1994, p3.

小沼光晴: "プラズマと成膜の基礎"、日刊工業新聞社、(1992)151-158.